

「北上さくら染め」が誕生

—今年是小物作りに挑戦へ—



お披露目となった発表会。多くの人が訪れ、好評を博した

北上市に新たな名産品が誕生した。その名も「北上さくら染め」。同市周辺で約千数百年前に栄えた仏教文化の中枢・極楽寺で行われたとされる「草木染め」を、『復活させよう』と、市内の染め物業者らが中心となって取り組んだもの。第一弾として「展勝地さくらまじり」の枝の皮を利用して、染めを行い、着物を作った。昨年八月にはお披露目として展示会が開かれ、ベージュや薄緑など、淡く美しい色の着物が好評を博した。関係者らは「将来的には草木染めを完全に復活させたい」とする一方、今年にはさくら染めを使ったスカーフや小物バックの作製にも取り組む方針だ。



昨年誕生した「北上さくら染め」で作られた着物。淡い美しい色が印象的だ



北上さくら染めの着物を身に着けたアナウンサーの高橋佳代さん

極楽寺を中心とする仏教文化は、奥州平泉文化よりも二五十年前に栄えたとされる。その時には、極楽寺には染草園があり、染草を作ったり、その染草を利用して草木染めを行っていたと伝えられている。

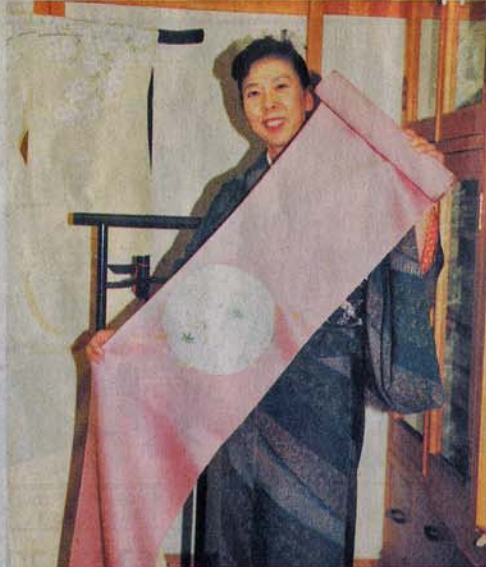
その草木染めを復活させようと取り組んだのは、三年前。北上市鍛冶町の染め物業「染の衣さとう」代表の佐藤敏孝さんらが中心となって「地元のものを使って、何かを作ってみたい」と考えたのがきっかけだ。佐藤さんが、京都の伝統工芸師・椎名厚夫さんとともに市内を散策していた際に、極楽寺を訪ねた。そこで、草木染めを知ったという。

しかし、草木染めについては文献がほとんどなく、染め方などは解明されていない。そこで、草木染め復活に向けた第一弾として「市内にある草花を使った染織品を作ろう」と、展勝地さくらまじりなどで市内の代表的な花として知られる「桜」を使った「北上さくら染め」を考案した。

染めは椎名さんに依頼し、約二カ月かけて完成。昨年八月末に同市本石町三丁目日本現代詩歌文学館で展示会を開き、初めて公開した。桜そのものの色のベージュをはじめ、その色に金属を混ぜる「媒染」により変化した薄緑や薄茶などの色の着物四点と帯二点が並べられ、来場者からは好評を博した。

佐藤さんは「極楽寺について今まで知らなかった部分も知ることができた。市民の皆さんにもこの北上さくら染めを通じて、地元を愛着を持ってもらえれば」と語る。今年第一弾として、さくら染めを利用した小物作りに取り組み意向。観光客に対する販売も検討している。

一方で、「染め」についてももっと知らせてもらうと、草木染めの体験教室の開催も予定している。さらに、いずれは極楽寺の草木染めに使われていたと伝えられる、桃を使っての染めの挑戦も計画しており、「将来的には草木染めを復活させたい」と意欲を燃やしている。北上さくら染めは、北上市の新たな「名物」として親しまれていきそうだ。



北上さくら染めの特産品「スカーフ」の展示会



北上さくら染めの原料となった桜の原木（持ちこいたのは佐藤さん）



北上さくら染めの着物を作った工房